

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 現代社会の課題や人間としての在り方生き方等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を的確に読み解きながら基礎的・基本的な概念や理論、考え方等を活用して考察する力を求める。問題の作成に当たっては、図や表など、多様な資料を用いて、データに基づいて考察し判断する問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問では、学習指導要領の「現代社会と人間としての在り方生き方」の中の「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」の領域を中心に、戦争（武力紛争）と平和の問題を全体の軸として、国籍、国家、エスノセントリズム、ヒューマニズム、ジェノサイド（集団殺害犯罪）、安全保障理事会、並びに、国連平和維持活動にかかわる知識及び思考力・判断力・表現力等を問うことを意図して作問した。小問においては、問1では、出生による国籍の取得に関して、概念や理論等を活用し、対象を考察し、現代社会の諸課題をとらえることができる力を問うことを意図した。問4では、人が持つステレオタイプの強さが対象への評価に影響することに関して、概念や理論等を活用し、社会的事象等の原因と結果等、関連について考察することができる力を問うことを意図した。問8では、国連の軍事的措置との比較における平和維持活動の性質に関して、多面的・多角的に考察し、その解決に向けて、公正に判断することができる力を問うことを意図した。識別力については、全体としてはおおむね適正であった。いずれの問題も現代の国際社会を理解するために必要な知識や能力を問うものである。

第2問では、学習指導要領における「現代社会と人間としての在り方生き方」の中の「個人の尊重と法の支配」「現代の経済社会と経済活動の在り方」の領域を中心に、雇用制度・日本の社会保障・行政改革・租税・金融政策・国家の財政規律に関わる知識および思考力・判断力・表現力等を問うことを意図して作問した。具体的に、問4では、財政赤字に関して概念や理論等を活用し、対象を考察し、現代社会の諸課題をとらえることができる力を問うことを意図した。問5では、中央銀行の金融政策に関して、概念や理論等を正しく適用して対象を分析する技能を問うことを意図した。問7では、プライマリー・バランスに関して、概念や理論、事実等を正しく理解する技能を問うことを意図した。識別力については、全体としてはおおむね適正であったといえる。現代社会で扱われる法制度・金融制度に関して、基礎的な内容の理解が求められる問いである。

第3問では、学習指導要領における「現代社会と人間としての在り方生き方」の中の「青年期と自己の形成」「現代の民主政治と政治参加の意義」「個人の尊重と法の支配」の領域を中心に、再生医療などの医療技術、女性や子どもについての日本の法制度、国会議員、様々な背景のなかで生きる人々の人権に関わる知識および思考力・判断力・表現力等を問うことを意図して作問した。高校生の課題探究という場面設定を基にし、近年の科学技術の進展にともなう社会の在り方を学ぶことを通して、生命と難病・障害、法制度、多様性の尊重について考えさせることを意図した。問1では、再生医療の技術に関して、概念や理論等を活用し社会的事象の本質をとらえることができる力を問うことを意図した。問4では、科学技術に関する法制度に関する知識を問うことを意図した。問6では、様々な人々が抱える生活上の困難に関して、多面的・多角的に考察し、その解決に向けて、公正に判断することができる力を問うことを意図した。識別力について、

全体としてはおおむね適正であったといえる。公職選挙法と民法の改正で成年年齢が 18 歳になったことから、少年の定義を 18 歳未満であると誤解した受験者が多かったと思われる。

第 4 問では、学習指導要領における項目「私たちの生きる社会」および「現代社会と人間としての在り方生き方」の中の「現代の経済社会と経済活動の在り方」の領域を中心に、国際平和・経済における相互依存関係の深まり、そして国際社会における貧困や格差に関する知識および思考力・判断力・表現力等を問うことを意図して作問した。問 1 では、比較生産費説に関して、概念や理論等を活用し、社会的事象等の原因と結果等、関連について考察することができる力を問うことを意図した。問 3 では、フェアトレードに関して、概念や理論等を活用し、制度や政策、日常生活に見られる人々の行為等、社会的事象の本質をとらえることができる力を問うことを意図した。問 4 では、GDP に関して、概念や理論等を活用し、制度や政策、日常生活に見られる人々の行為等、社会的事象の意味や意義を解釈することができる力を問うことを意図した。問 5 では、ジニ係数に関して、概念や理論等を正しく適用して、対象を分析する思考力を問うことを意図した。識別力について、全体としてはおおむね適正であったが、問 1 が識別力が高く、問 4 は低かった。いずれの問題も国際平和・経済における相互依存関係の深まり・国際社会における貧困や格差を理解するために必要な知識や能力を問うものである。

第 5 問では、学習指導要領の項目「共に生きる社会を目指して」を中心に、地域や学校、生徒の実態等に応じて課題を設定し、持続可能な社会の形成に参画するという観点から多文化共生社会を事例とした課題を探究する活動を通して、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方についての考察を深めさせるための思考力・判断力・表現力等を問うことを意図して作問した。場面設定については、生徒が自ら課題を把握し、地域や海外の仕組みを調べ、考察した結果をまとめ表現する過程を考察させることを目指した。問 1 では、「在留資格別在留外国人数の推移」に関して、表の数値から現象を読み解く技能を問うことを意図した。問 2 では、異文化接触に関して、概念や理論等を活用し、制度や政策、日常生活に見られる人々の行為等、社会的事象の意味や意義を解釈することができる力を問うことを意図した。問 3 では、海外の選挙制度に関して、根拠に基づいて多面的・多角的に考察し、様々な立場からの主張を公正に判断することができる力を問うことを意図した。問 4 では、文化的な背景の違いを超えて人々が暮らす社会の実現という視点に立ち、海外の取組み事例に関して、概念や理論等を活用し、制度や政策、日常生活に見られる人々の行為等、社会的事象の本質をとらえることができる力を問うことを意図した。全体的な識別力はおおむね適正であった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

第 1 問では、全体について、「期せずしてタイムリーな内容となった問題から構成されている」との評価を得た。問 1 については、「血統主義と出生地主義の考え方が分かりやすく提示されており、それに基づいて論理的思考により解答を導き出す問題で、難易度はやや高いと思われる。」との評価がなされた。大問 1 の第 1 問であったことから、受験者が十分に時間をかけて解答したことが伺われる。問 4 については、「非常にメッセージ性の感じられる問題である」との評価を受ける一方、「資料や記述の分量は多いが、難易度は易しい」との指摘も受けた。今後も引き続き資料やデータから思考力・判断力・表現力等を問う出題形式を工夫していきたい。問 8 には、「丁寧に図表を読み解き、その内容を整理して理解しないと正答にたどり着くことが出来ず、問題としての文章量は少ないが本当の意味での読解力が問われる良問である」また「国際連合がとる軍事的措置と PKO とを対比し、PKO についての基礎的基本的な知識を確認することを通して国際の平和と安全を考える平易ながら大切な問い」との高い評価を頂いた。出題意図が評価されたことを喜

ばしく思う。今後も問題作成方針にある「現代社会の課題や人間としての在り方生き方等について多面的・多角的に考察する過程」につながる作問を心がけたい。

第2問については、全体として、「出題は基本的な内容が多く、難易度は高くないが、受験者に十分な知識の定着が見られなかった問題がいくつかあった」という評価を得た。問2については、「具体的な数字をあげての問題は、その数字の部分で正誤が判断されているのではないかと考える受験者も多く、その意味で受験者への負担も大きい」との意見を受けたが、具体的な数字（西暦年など）は、問かけ文や会話文との整合性を図り、正確を期すためにやむを得ず入れたものである。出題に当たっては受験者の負担にならないように問題文に工夫をこらしたが、受験者の過剰な負担にならないよう今後も十分に注意していきたい。問5については、「時事的な要素を含んでいる問題でもある」との評価を得た。問7については、「表を用いたことや計算しやすい数字をあげて、初めてこのような問題をみる受験者にも分かりやすく示されていることには好感が持てるが、難易度はかなり高いといえる問題である」との評価を得た。現代社会としてプライマリー・バランスに関連する必要な知識を用いた思考力を問うことを意図したが、確かにやや難易度が高い面があったと思われる。各問題の難易度調整に引き続き注意していくとともに、今後も資料やデータから思考力・判断力・表現力等を問う出題形式の工夫を重ねたいと考える。

第3問では、「生命の扱いをめぐる課題を軸に、生殖技術、難病治療と障害等に関する問題や、多様性の確保や尊重などをテーマとした出題」と、テーマの一貫性およびその時事性について前向きな評価をいただいた。しかし他方で、問5については、日本の国会や国会議員に関する基本的な知識を問う問題だったが、「この大問の中にあることは、生命倫理などに関する問題を解いてきた受験者にとって、唐突に政治に関する問題が出てくることには違和感がある」との評価を得た。大問全体のテーマと小問との関係については、今後の検討課題である。問6については、「多様性の尊重を意識し、社会的障壁の除去は障害者以外のマイノリティの支援にもなるというメッセージ性の非常に高い良問」との高い評価を頂戴した。出題者の意図が適切に理解されたことは喜ばしい。難易度は決して高くはなかったが、新課程においても、現代社会の在り方を多面的・多角的に検討できる思考問題の作成を心がけていく。

第4問は、全体として、「豊かさをめぐって政治的分野から経済的分野まで幅広く問うている」との評価を得た。問1については、「比較生産費説を適切に理解していれば解ける問題である」との評価がなされた。問4は、「資料に基づきGDPに含まれる具体的な事例を選ぶ思考力判断力の問い」であるが、一部の内容については「通常、高校では扱われておらず、それを理解させた上で問題を解くという点において難易度が高まっている」との意見とともに、「思考の問題として良問である」との高い評価を頂いた。応用的な思考による識別力の差が表れたものであり、そこまで問うたことの出題意図が評価されたことを喜ばしく思う。問5については、「与えられた資料を正確に読み取り、解決に向けた政策を考察するという非常に工夫された出題」であり、「既習した知識を活用し、資料を読み解き、既習した知識を基に考察するという評価の3つの観点がまんべんなく発揮されなければ正答に至らないという、今回の試験において一番の良問である」との評価を頂いた。出題内容が極めて高く評価されたことを幸甚に思う。一方で「ジニ係数はすべての教科書で扱われていないため、…ジニ係数についての説明が問題文中にあった方が良かった」との指摘も受けた。もっとも、「読み取りは難しくはない」との評価もいただいているので、試験問題としては適切であったと考えている。今後も問題作成方針にある「現代社会の課題や人間としての在り方生き方等について多面的・多角的に考察する過程」につながる作問を心がけたい。

第5問については、全体として「4つの課題探究の例を通して思考力・判断力・表現力等を問う」との評価を得た。これは第5問の狙いを達成したものと考えている。とくに問3について、

「少数意見への配慮を具体的な形で示した出題として、強いメッセージ性を感じる良問と言える」と出題者の意図を理解いただいたことは喜ばしい。また、「このような形でのボルダールールの説明の仕方はそのまま授業でも導入することができる。表現上も良く工夫されており、「公共」の授業でも活用できる問題である」との評価を受けた。一方で、「公正に選ぶとはどのような方法があるのか、なぜそれが公正であるのかを考えさせるようなところまで踏み込む」とより良い問題になるとの指摘も受けた。今後も出題形式を工夫し、より深い学びを実現できる出題を実現できるように工夫したい。問4については、「グローバル化の課題に対する取組みの方法を丁寧に読み取り、その趣旨を具体例に当てはめて確認すれば正答に至る」との評価を受けた。問1と問2をはじめとして、全体的に難易度が「平易」であるとの指摘を受けたが、総じて、グローバル化という現実を生きる人々が海外にルーツをもつ人々と多文化共生を目指した場合、どのような未来を選ぶことが「幸福・正義・公正」にかなうかという「現代社会」らしい出題ができたと考える。大問5は課題探究を主題とし、たとえば調査結果を事例に当てはめ分類するという作業（思考）などを盛り込んでいるが、それゆえに難易度の調整が難しいという性質をもつ。探究の過程を問う出題方法については引き続き検討を行い、より深い学びを実現できる作問を目指したい。

4 ま と め

全体を通して、「基礎的・基本的な知識・技能の確認から、習得した知識・技能を用いて思考力・判断力を働かせて解く問題までが、…出題分野の偏りなく出題されている。配点は出題分野の偏りはなく、考えて解く問いに配点を重くするなど工夫されている」との評価をいただいた。現行学習指導要領の下で全ての受験者に対して実施される大学入学共通テストは今年度が最後であるということで、とりわけ学習指導要領の各内容項目から遺漏なく出題し、そのうえで受験者の知識・技能・思考の各面をバランスよく問うことに留意して作問した点が評価されたものと考えている。また全体的な難易度については、「いわゆる難問・奇問とされる問題は見られず、高校生が学習した知識や技能、涵養した思考力や判断力に基づき、考えて解いていく工夫が施された標準的な問題」との評価を受けた。各大問の平均点や得点の散らばりを見ても、識別力はなべて適切なものであったと認識している。さらに形式に関しては、「既習した知識を活用して考察させる問題や、概念や考え方をはじめに提示した上で具体的な場面にあてはめて考えさせる問題など、今後、高等学校の公民科での学習指導の改善に資するところが多い」との前向きな評価をいただいた。「新課程をかなり意識して作られているのではないかと思われる問題も何問か見られた」という当部会の意を汲んでいただいたコメントも頂戴したが、新科目「公共」につながるメッセージを凝らした問題を準備したことが外部から肯定的に評価された点は喜ばしい。

他方で、「文字数や使用されている数値データが多いこと、受験者が正答を導き出す上で大きな負担となる3つの文などの正誤の組合せ問題（選択肢が8つある問題）が相変わらず多数出題されていること、大問中に大問全体のテーマと無関係な内容の小問が出題されていること」の各点については、厳しいご指摘を頂戴した。出題における学術的・教育的意図を保持しつつ、全体の分量削減および形式面でのさらなる工夫を重ねる余地については、新課程につながる重い課題として捉えている。